

「戦雲」

梅津純子

「戦雲また湧き出るよ」ミサイルの基地に抗ふ老女の唄声

石垣島の即興の抒情詩とばらーま

「あの時に反対の声上げてれば」悔やまぬためにと牛飼ふ男

与那国島

「私たちは〈多少の犠牲〉に入つてるね」子らと山羊飼ふ女の抵抗

宮古島

太ももを刺したるカジキをつひに仕留め快哉叫ぶ海人おぢい

うみんちゅ

全島民島外避難の計画ぞ畑を潰し海を埋めて

闘つたその事実こそ子孫への宝と語る辺野古の老は

「戦雲」予想を超ゆる人ら観る秋の行事の重なる中を

小さき声世に届けむと四十年余若かりし友の髪も白みぬ

資金無く組織も無くば前売りで経費の見通し立てる他なく

心優しき人と待みて自が心励まして訪ふ前売りの日々